

「自然づくり・環境づくり・人づくり」 サマーチャレンジ 2016

川ある～き調査隊 実績報告書

期日	2016年8月6日(土) 8:30～				
場所	日川 (ぶどう橋周辺)				
気温	37℃				
水温	19.5℃				
隊長	田辺 篤 市長				
講師	長田 義己 氏 (山梨動物生態研究会) 北村 眞一 氏 (山梨大学教授)				
参加者	児童 61名	保護者 37名	スタッフ 42名	計 140名	

1. 水質調査

1-1. 調査方法

パックテスト(簡易水質調査キット)による検査方法を用いる。

もっとも簡単な水質測定器であり、多くのパックテストの反応原理は JIS K 0102 などの各種公定法内の吸光光度法を応用している。

1-2. 用語説明

化学的酸素消費量 (COD)

海水や河川の有機汚濁物質等による汚れの度合いを表す数値で、水中に有機物などの物質がどれくらい含まれるかを、過マンガン酸カリウムなど酸化剤の消費量を酸素の量に換算して示される。CODの数値が高いほど水中の汚染物質の量も多いということを示す。魚がすめる河川の水のCODは5mg/l以下とされる。

COD値 (mg/l)	0	1以下	2～5	5～10	10以上
汚染の目安	きれいな水	きれいな 溪流	汚染がある	汚染が多い	汚れた水

1-3. 調査結果

パックテストの結果(表1)、日川は良好な水質である。前日の雨の影響で濁りがあったため透明度は低かった。

表 1. 日川の水質調査結果

項目	数 値
COD	0~2mg/l
透視度	38cm

2. 生物調査

2-1. 調査方法

ガサガサによる捕獲を行う。ガサガサとは、生物がいそうな場所の下流側にタモ網を川岸に垂直になるように置き、上流側から足でガサガサと魚をタモ網へ追い込む方法のことである。

2-2. 調査結果

15 種類 445 匹の生物を捕獲することができた(表 2)。山の生き物や川の生き物が混在している環境であり、多様な生物が棲む、きれいな水といえる。

表 2. 日川で捕獲した生物

名前	数 (匹)	写真	コメント
ヒゲナガカワトビケラ	62		流れの速い早瀬の礫や小石の間隙に固着巣を作り、糸で巣をはって生活する。
カジカ	42		きれいな川にしか住めない。ふるさとの溪流を代表する魚。種類によっては絶滅危惧種あり。
アブラハヤ	155		地区によって名前の違う。触ったときにぬるぬるするのでアブラハヤと呼ばれる。
コオニヤンマのヤゴ	18		天敵から身を守るために、落ち葉に扮した見目をしている。

コヤマトンボのヤゴ	13		楕円形で平べったく、脚が長い。丘陵地や低山地の河川で見られる。
ヘビトンボ	6		川底は良い環境にしかない。この川みたいにきれいな川にいる。
ナベブタムシ	95		河川清流域の川底の細礫の中に潜っている。容存酸素量の多い平瀬に多く生息する。
ミヤマカワトンボのヤゴ	6		成虫であるトンボの形に近く、おなかの先っぽにはうすくて長い3本の尾がある。
サナエトンボのヤゴ	6		扁平で紡錘形に近い形で、足はあまり長くない。あまり活発に泳ぐようなものはなく、多くは水底の泥や砂に潜る。
サワガニ	5		カニの中で海にいかないカニ。メスとオスの見分けが出来る。
カワニナ	21		農薬や合成洗剤などが流れ込んでいないこと、溶存酸素量が多いことなどの条件で生息可能。
モンカゲロウ	1		体は細長く円筒形で軟弱。鰓は7対あって、背上で互いに触れ合いふさふさとしている。

<p>ツチガエル (オタマジャクシ)</p>	<p>4</p>		<p>孵化したその年に変態するものと水底の落ち葉などの間で越冬し翌年に変態するものがある。体に縦の細い暗紋がある。</p>
<p>カワヨシノボリ</p>	<p>9</p>		<p>日本の固有種。水のきれいな、流れのある淵から平瀬にかけての木の根や水草の陰、川底の石周りなどに多い。</p>
<p>ヒラタカゲロウ</p>	<p>2</p>		<p>平たい体で、石の表面を滑るように動く。石の表面に生える藻類を食べる。</p>

3. まとめ

日川は多様な生物が生息するきれいな川であり、甲州市の大切な財産であることを再認識できた。他の川でも調査を行い、日川では採取できなかった生物が見つかり、日川とどう違うのか比較することができて面白いかもしれない。その際は必ずライフジャケットを装着し、子どもだけで入らないようにすること。今回は前日の雨の影響で少し水量が多く濁っていたが、怪我や事故もなく笑顔溢れるイベントとなった。川の楽しさとともに危険性も学びながら、将来へ残すべき大切なものを子どもたちが感じてくれていた。



